

平成27年度 ★実施計画 個別評価シート（26年度事業の評価）

1. 事業の概要 (Plan)

事業名	事業No.	296 廃棄物処分場管理運営事業 (H26～統合)									
総合計画	めざますまの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち		担当部	環境部					
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する			担当課	ごみ減量課					
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業 (事業1)	廃棄物処分場管理運営費			細事業名 (事業2)	廃棄物処分場管理運営事業 (H26～統合)				
実施主体	市	実施方法	市が直接実施・運営		対象	全市民					
事業期間	開始年度	-		終了予定年度	-						
事業の目的	生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、市民生活により排出される廃棄物を安定的に埋立処分する。										
事業の概要	笠子廃棄物処分場と新居一般廃棄物処分場に係る施設の一般維持管理(浸出水水質検査、分別推進、再資源化、廃棄物発生抑制)及び車両等の維持管理、周辺環境整備(地元対策)の実施。										

2. 事業の実績 (Do)

事業実績	搬入・搬出に係る受付及び車両等の維持管理、廃棄物処理法第8条の3及び省令第1条の技術上の基準を遵守した運営、新居・湖西地区の地元対策を実施。										
課題	施設等の老朽化対策、埋立管理に伴う笠子廃棄物処分場内の借地買収、地元への理解・協力等。										
コスト	事業費 (A)	当初予算額	平成25年度	平成26年度	平成27年度						
		決算(見込)額	59,706 千円	80,132 千円	66,160 千円						
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	0 千円	0 千円	0 千円						
		一般財源	56,044 千円	78,719 千円	66,160 千円						
	人件費 (B)	51,779 千円	15,094 千円	9,877 千円							
	人工(職員数の内訳)	6.95 人	2.02 人	1.32 人							
	トータルコスト (A) + (B)	107,823 千円	93,813 千円	76,037 千円							
活動指標	内容		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
	笠子・新居廃棄物処分場浸出水水質基準値遵守率	%	目標	100	100	100					
			実績	100	100						
達成度	100.0%	100.0%									

3. 評価 (Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」	
	《判定理由》 施設及び管理車両の法定点検等維持管理、処理水等の法定基準値を遵守した維持管理は必要であり、老朽化する設備の改修に予算等の投入が必要。	

4. 今後の事業の方向性 (Action)

今後の事業の方向性	継続
今後の取組内容 (課題に対する改善等)	水処理施設に伴う設備の老朽化を改善するとともに、雨水対策による負荷の軽減を図った。事務処理上の改善を図るため、廃棄物処分場の維持管理に係る費用を一本化。

平成27年度 ★実施計画 個別評価シート (26年度事業の評価)

1. 事業の概要 (Plan)

事業名	事業No	303 廃棄物対策事業 (H26～統合)									
総合計画	めざすまちの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち		担当部	環境部					
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する			担当課	ごみ減量課					
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業 (事業1)	廃棄物対策費			細事業名 (事業2)	廃棄物対策事業 (H26～統合)				
実施主体	市	実施方法	一部又は全部委託		対象	全市民					
事業期間	開始年度	-		終了予定年度	-						
事業の目的	家庭系一般廃棄物を適正に収集し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。										
事業の概要	家庭系一般廃棄物の収集と運搬を委託して実施する。										

2. 事業の実績 (Do)

事業実績	家庭系一般廃棄物の収集と運搬を委託して実施した。 可燃ごみ、不燃ごみ、剪定枝と草、ペットボトル、飲料水缶、ガラスびん、プラマーク品、白色トレイ、乾電池、スプレー缶、カセットボンベなど。 指定ゴミ袋の作成、資源物回収拠点整備、リサイクル推進事業、広報PR、容リ協、浜松市への可燃ごみ委託の実施。										
課題	ごみの収集・運搬に多くの経費がかかる。ルール違反ごみ、ごみ減量対策等。										
コスト			平成25年度	平成26年度	平成27年度						
	事業費 (A)	当初予算額	280,098 千円	688,419 千円	655,787 千円						
		決算 (見込) 額	266,489 千円	672,563 千円							
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	106,054 千円	106,113 千円	0 千円						
		一般財源	160,435 千円	566,450 千円	655,787 千円						
	人件費 (B)		3,840 千円	39,299 千円	41,185 千円						
	人工 (職員数の内訳)		0.52 人	5.27 人	5.51 人						
トータルコスト (A) + (B)		270,329 千円	711,862 千円	696,972 千円							
活動指標	内容		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
	すべてのごみステーションと資源物回収拠点のうち毎回回収している率→100%		%	目標	100	100	100				
				実績	100	100					
		達成度	100.0%	100.0%							

3. 評価 (Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」 《判定理由》 すべてのごみステーションと資源物回収拠点から収集、運搬は必要であり、事業内容、実施方法ともに現行水準を維持していくことが適当である。ごみ減量のための各種分別方法の徹底、リサイクル項目の増加や指導・PRを推進していくことが適当である。	

4. 今後の事業の方向性 (Action)

今後の方向性	事業の方向性	継続
今後の取組内容 (課題に対する改善等)	ごみステーションの新設、移設、廃止については、地元要望に基づいてできるだけ実施した。事務処理上の改善を図るため、廃棄物対策に係る費用を一本化した。粗大ごみ戸別収集、雑紙・小型家電リサイクル、ルール違反ごみ削減のための監視カメラの設置などを実施した。	

平成27年度 ★実施計画 個別評価シート（26年度事業の評価）

1. 事業の概要(Plan)

事業名	事業No	311 ごみ処理施設運営事業									
総合計画	めざすまちの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち		担当部	環境部					
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する			担当課	ごみ減量課					
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業(事業1)	ごみ処理施設管理運営費			細事業名(事業2)	ごみ処理施設運営事業				
実施主体	市	実施方法	一部又は全部委託		対象	全市民					
事業期間	開始年度	-		終了予定年度	-						
事業の目的	法規定に基づく維持管理基準を遵守し資源循環型社会を実現するため、資源の有効な利用の確保を図る。										
事業の概要	環境センターで処理した可燃ごみ等を運搬するため、運搬車両を管理を行うとともに環境センターリサイクルプラザの管理及び運営を行う。										

2. 事業の実績(Do)

事業実績	運搬車両及び施設設備機器等に係る維持管理保守点検及び搬入された廃棄物の破碎・選別、資源化、運搬、処理を法定基準内で滞りなく行った。また、家庭系持込ごみの有料化をH25.10月から実施した。										
課題	設置が平成10年であったので、いろいろな機械が寿命となっている。										
コスト	事業費(A)	当初予算額	平成25年度	平成26年度	平成27年度						
		決算(見込)額	271,348 千円	281,995 千円	314,690 千円						
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	0 千円	0 千円	0 千円						
		一般財源	253,401 千円	272,214 千円	314,690 千円						
	人件費(B)	20,339 千円	21,753 千円	17,778 千円							
	人工(職員数の内訳)	2.73 人	2.91 人	2.37 人							
	トータルコスト(A)+(B)	273,740 千円	293,967 千円	332,468 千円							
活動指標	内容	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度						
		%	目標	35%	36%	37%					
			実績	41%	39%						
達成度	117.1%	108.3%									

3. 評価(Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」 《判定理由》 廃棄物処理施設の維持管理基準を遵守した運営は必要であり、今後、老朽化した機械の更新等にさらなる予算等の投入が必要となる。	

4. 今後の事業の方向性(Action)

今後の方向性	継続
今後の取組内容(課題に対する改善等)	平成25年10月から家庭系持込ごみを有料化した。ごみの減量化をさらに進めるため、小型家電リサイクルを開始。事務処理上の改善を図るため、環境センターの運営、維持管理に係る費用を一本化した。